

西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年1月24日現在

今月の重点活動

■ トマト 生産安定に向けた支援

1月上旬までの出荷量は、3ヶ年対比で89%、前年対比でも88%と減少しており、要因のひとつとして、近年の夏期の高温化・長期化に伴い、抑制・促成作型で定植日を遅らせる生産者が多くなったことが推察される。加えて、10月の高夜温・天候不順による着果不良、11月以降の急速な温度低下による着色の遅れも影響していると思われる。

1月以降は、概ね天候は安定しており、今後は日射量が増加してくることから、日中の気温と日射量を十分に活用した栽培管理とともに、適切な病害虫防除対策の実施について支援を継続していく。

活力ある新産地づくり

■ ブロッコリー ブロッコリー出荷状況

11月中旬からの低温により、ブロッコリーの生育は遅延しており、12月末までの出荷量は11,159ケース(前年比119%)、出荷額15,042千円(前年比107%)となっている。前年産は12月上旬の積雪により生育遅延したが、今年産も同程度の出荷状況となっている。市場からのニーズの高い12月の出荷量については、平成23年産の6割程度となっているため、次年産に向けた品種・定植時期の見直しが必要と思われる。

農業普及課からは、個別巡回により、草勢維持と花蕾黄化防止のための追肥、花蕾腐敗病予防防除の実施について支援した。



【収穫の様子】

売れる農畜産物づくり

■ 小麦 生育は遅れ気味

10月播種のイワイノダイチでは、ほぼ有効茎数が確保できたが、11月中旬以降の低温推移により、全体に出芽揃い、初期生育とも遅れ気味であり、11月下旬播種では、初期生育が大幅に遅れており、ようやく分けつを開始している状況である。

今後は、2月末から3月中旬の適期・適切な穂肥の施用、定期的な明渠の点検・補修の実施による排水対策の徹底等により、高品質小麦の安定生産について支援していく。

■ きゅうり 巡回検討会の開催

12月下旬までの販売実績(対前年)は、数量98%、金額125%、単価128%であり、半促成栽培(12月定植)の生育は概ね順調に推移しており、早い人は1月8日から出荷が始まっている。

1月8日に、海津胡瓜部会の半促成巡回研究会が開催された。研修会に先立ち、関係機関、生産者が3班に分かれ、全戸のハウスの巡回調査を行い、生育状況や病害虫の発生状況等の状況について報告された。

農業普及課からは、キュウリ黄化えそ病に関わる調査結果と防除対策について説明し、抑制栽培から半促成栽培への切り替え時のチェックポイントについて再確認した。

■ いちご 第2果房の出荷始まる

今年産の生育については、頂果房の花芽分化が早かったものの、第2果房の花芽分化が遅く、現在は頂果房の出荷が終わり、収穫の谷間となっている。早い生産者は、第2果房の出荷が始まっており、2月上旬より本格的な出荷が始まると予想される。

現在、第3果房の出蕾も始まりつつあるが、花が弱い傾向が見られるため、昼間の温度確保や摘蕾・摘果の徹底等による厳寒期の草勢維持対策の実施について、個別巡回等を通して呼びかけている。

■春菊 アブラムシ防除指導

海津市の春菊ハウスで発生しているモモアカアブラムシについて、農薬の感受性低下の可能性が示唆されたため、農業経営課技術支援係と連携して防除指導を行った。今後、地区別に、アブラムシに対する農薬の防除効果について、聞き取り調査を行う予定である。

■なし 次年産の安定生産に向けた支援

休眠期となり、整枝・剪定作業が実施されており、電動結束機を導入し、省力化を図る農家が増えてきている。

農業普及課からは、毎月実施している2組織の勉強会において、病虫害防除対策、農薬の適正使用、土壌診断実施に基づく適正施肥の有効性等について説明し、次年産なしの安定生産に向けた支援を行った。

■かき 剪定研修会の開催

12月24日に、養老町果樹振興会の剪定研修会が、養老町のモデル柿園で実施され、部会員25名の参加があった。

農業普及課から、剪定や今後の管理について説明した後、地区ごとに分かれ、それぞれ担当する樹に対して剪定の実演を行った。

先に開催された県剪定研修会における柿名人の指導内容を手本とし、主枝・垂主枝に新しい結果母枝を着けるような、思い切った樹形改造のため剪定を取り入れることとした。



【柿剪定研修の様子】

役員反省会の開催

1月16日に養老町果樹振興会、17日に南濃町柿部会の役員会反省会が開催された。平成25年産かきの出荷量は、昨年約2割減であったが、単価は5割増で、売り上げは2割増であった。

農業普及課からは、栽培上の問題点への対策として、間伐や古枝の更新を次年産の改善目標とするとともに、総会時の栽培研修会においては、会員相互の情報交換を促進するため、少人数での討論会「柿カフェ」を開催することなどを提案した。

また、土壌改良を促進するため、養老町内で生産される安価な牛糞堆肥の積極的利用についても呼びかけた。

戦略的な流通・販売

■牧園芸組合だいきん部会 祝だいきん前年以上の出荷実績を達成！！

祝だいきんの生産は、JAぎふだいきん部会と連携した取り組みであり、大阪市場向け出荷（12月21日～28日の7日間限定）が行われている。12月20日に目揃会が開催され、低温・多雨傾向により、首汚れや、肥大不良（生育遅れ）など生育面では課題があったものの、前年以上（前年比120%近い）の出荷が行われた。

農業普及課からは、生育調査に基づく栽培管理の指導等を行い、限られた出荷期間に対応できるように支援を行った。

魅力ある農村づくり

■みかん 牛糞堆肥利用による環境保全の推進

昨年末、養老町内に利用を待つ安価な牛糞堆肥があることについて、県中央家畜保健衛生所からの情報提供を受けて、南濃町のミカン農家に働きかけたところ、新植ほ場に利用したいとの要望があった。

年明けに、ほ場に搬入された堆肥の状況を確認し、匂いも少ない完熟堆肥であることが認められた。ミカン農家も散布にかかる労力があれば、もっと利用したい意向を持っている。



【施用された牛糞堆肥】